

1. 会長挨拶 2. 内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」についての声明 3. 2022年度第72回総会報告 4. 10月・12月・2月理事会関連事項 5. 会員異動 6. 新役員・委員 7. その他 8. 事務局からのアナウンス
- 

## 1. 会長挨拶

中村唯史

2022年2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻を開始してから1年以上が過ぎましたが、戦争はなお解決の糸口さえ見えず、流血と破壊の事態が続いています。この地域の言語や文化を対象とする研究者が多く属する日本ロシア文学会は、改めて深い憂慮の念を表明します。本学会は昨年2月28日に「ロシア軍のウクライナ侵攻への抗議声明」(<https://yaar.jp.org/?p=101>)を、同3月15日に「ロシアの言葉・文学・文化を今、あるいはこれから学ぶ皆さんへ」(<https://yaar.jp.org/?p=94>)を發出し、戦争行為を開始したロシアの政府と軍を文化と学問の立場から批判するとともに、ロシアの権力・体制と、一般市民および文学・文化・言語とをきちんと分けて考えるべきとの姿勢を明らかにしました。このような姿勢は現在も、本学会会員の最大公約数的な共通理解であると信じます。

戦争とその責任者を批判すべきことは、思想と表現の自由、そしてその前提としての平和を存立の必要条件とする人文学の研究者にとって自明です。また「ロシア」という「想像の共同体」のレッテルの下に、政府・軍と、市民や文学・文化・言語とを同一視することは、結果的にナショナリズムの陥穽にはまりかねない危険をはらんでいます。すべての人々の権利と自由が護られることと、そのために不可欠な平和を願い、一切の暴力と抑圧に反対します。

ロシアの権力とこれに同調する人々はいま、過去からのロシアの言語や思想や文化の蓄積の体現者としてふるまおうとしています。実際には自分たちの暴挙を正当化するためにそれらを利用しているにほかなりません。他方、ウクライナの事態を根拠にロシアの市民や文化を排斥しようとする動きは、世界の歴史において各地で何度も繰り返されてきた差別や、時系列を無視した錯綜に陥る可能性があります。

ロシアの過去の言説・文学・文化は、今回の事態以前に語られ、書かれ、創られたものです。学会としての活動を、そして各自の研究を従来通りに着実に進めることで、ロシアの言説や文化をそれ自体として考究し、これらを遡及的に自己正当化のために利用している人々から奪還することは、この地域の言語的・文化的現象を対象とする人文学に従事する私たちの責務です。

すでに学会HPや学会員MLでお知らせしてきたところですが、昨年11月に奈倉有里さんの著書『アレクサンドル・ブローク 詩学と生涯』(2021年、未知谷)がサントリー学芸賞(芸術・文学部門)を、同12月には古宮路子さんが著書『オレーシャ『羨望』草稿研究 人物造形の軌跡』(成文社、2021年)をはじめとするユリー・オレーシャ『羨望』の生成過程解明に基づいたソ連前期ロシア文学史の実証的研究に対して日本学術振興会賞を、また本年1月には畔柳千明さんがロシア帝国の北京宗教使節団の研究を評価されて日本学術振興会育志賞を授与されました。これらの受賞は、ご本人の研鑽に基づく傑出した業績によるものですが、学術的・文化的な姿勢を貫こうとする多くの研究者を励まし、力づけてくれます。

昨年度の全国大会は、前田和泉副会長を委員長とする大会組織委員会、開催校の石川達夫さんを委員長とする大会実行委員会ほかのご尽力で、専修大学神田キャンパスにおいて、新型コロナ・ウィルス禍発生後ひさしぶりに一部対面により成功裏に実施することができました。今年は野中進副会長を委員長とする大会組

織委員会、開催校の武田昭文さんを委員長とする大会実行委員会を中心に、2023年10月21日（土）・22日（日）の両日、富山大学（五福キャンパス）にて開催の予定です。10月20日（金）にはプレシンポジウムも予定されている由です。新型コロナ・ウィルス禍の状況も考慮しつつ、対面による実施を模索中とかがっています。直接に顔を合わせて意見や情報の交換をおこなうことには、やはりオンライン形式とはまた別の長所と波及があります。皆様のご参加を心からお待ちいたします。

学会誌『ロシア語ロシア文学研究』第54号も、坂庭淳史さんを委員長とする学会誌編集委員会のご尽力で、例年通り刊行されました。今号には採択数は少なかったものの、優れた論文が掲載されましたし、論争的な書評欄も充実したものでした。現在はすでに次号の編集作業が進捗している由をうかがっています。学会誌の更なる発展を楽しみにしたいと思います。

これらの活動の他にも、日本ロシア文学会は昨年9月25日に、日本ロシア語教育学会との共同主催で、「日本におけるこれからのロシア語・文学・文化教育—多言語・多文化共生のポリティクス」と題するシンポジウムをオンライン形式で開催し、ウクライナにおける戦争という状況下でのロシアの言葉と文化に関する教育のあり方について真摯な議論を交わしました。当学会からは鴻野わか菜さんを委員長とする社会連携委員会が開催までの準備を担当してくださいました（プログラムは、<https://yaar.jpn.org/?p=821> をご覧ください）。また12月17日には、若手ワークショップ企画賞受賞の「ロシア・東欧の『パストラル』の諸相」がハイブリッド形式で開催され、充実した報告と議論がおこなわれました。詳細については、すでに学会HPに掲載されている、企画代表の五月女颯さん文責の実施報告書をご覧ください（<https://yaar.jpn.org/?p=1715>）。

日本ロシア文学会では今年も引き続き、昨年逝去された三谷恵子前会長追悼シンポジウムを日本スラヴ学研究会と東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室と共催するほか（本年6月18日予定）、三谷前会長の発案で始められた「日本ロシア文学会主催公開シンポジウム」の再開、新たな「若手ワークショップ企画賞受賞ワークショップ」の開催等を予定しています。このような状況だからこそ、秋山真一さん、北井聡子さん、安達大輔さんの新旧学会事務局と本田晃子さんを委員長とする広報委員会の主導による学会HPのリニューアルと学会費納付・会員情報のあり方の現代化、地方支部の一部統廃合などの効率化を進めつつ、学会としての通常の機能を確かに果たしていきたいと考えています。全国の大学におけるロシア語履修者数の把握にも努めてまいります。会員の皆さまのいっそうのご理解とご協力をお願いいたします。

なお、文化の健全かつ自由な発展をめざす人文系の学会である日本ロシア文学会は、昨年12月6日に内閣府が公表し、今次国会に法案化されて上程される予定の「日本学術会議の在り方についての方針」を深く憂慮せざるを得ません。「政府等（ないし社会）と問題意識や時間軸等を共有」することや、②「会員等以外による推薦などの第三者の参画」を日本学術会議に求めているからです。日本ロシア文学会は理事会・会長連名で、本年2月15日にこの問題に関する声明を发出了しました（<https://yaar.jpn.org/?p=17>）ので、下記でご確認ください。私たちは、ロシアにおける言論や学問に対する統制を目の当たりにして強い危惧を抱いていますが、自分たちが住む日本においても学問や思想や文化が管理下に置かれるのではないかという不安が杞憂であり、一日も早く払拭されることを願うものです。

## 2. 内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」についての声明

内閣府が令和4（2022）年12月6日に公表した「日本学術会議の在り方についての方針」は、①「政府等と問題意識や時間軸等を共有」することや、②「会員等以外による推薦などの第三者の参画」を、日本学術会議に求めています。

このことは、権威や権力からの自律という学問・研究の基本的な存立要件が損なわれる可能性への不安を

私たちに惹起し、2020年に日本学術会議が第25期会員候補者として推薦した105名の研究者のうち6名が内閣総理大臣により任命されなかったような事態が今後恒常化するのではないかとの危惧を抱かせます。

このような事態は、学問の自立性を脅かすものであり、ひいては憲法で定められた思想や表現の自由に対する脅威になりかねないと考えます。学問は政府から自律し、長期的・世界的な視野を持ってこそ、政府に対しても適切かつ有効な提言をおこなうことができます。

文化の健全かつ自由な発展をめざす人文系の学会である日本ロシア文学会は、上記①・②の2点について、日本学術会議が令和4（2022）年12月21日に発出した声明「内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」（令和4年12月6日）について再考を求めます」で示した危惧を共有し、「日本学術会議の在り方についての方針」の見直しを求めます。

2023年2月15日 日本ロシア文学会 理事会  
会長 中村唯史

### 3. 2022年度第72回総会報告

第72回定例総会・研究発表会（専修大学・ハイフレックス大会）は、2022年10月22日（土）、22日（日）の両日、専修大学（対面）+zoom（オンライン）のハイフレックスで開催されました。10月22日（土）午後開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

- 開会の辞 会長：中村唯史（以下敬称略）  
中村唯史会長が開会の辞を述べた。
- 日本ロシア文学会賞表彰 【論文部門】畔柳千明  
【著書部門】古宮路子  
学会賞選考委員会八木君人委員長による選考結果の報告を安達大輔事務局書記が代読し、中村会長から畔柳千明、古宮路子両氏に表彰状が授与された。副賞は事務局から送金された。
- 議長団選出 【候補】粕谷典子（関東）、齋須直人（中部）、堀口大樹（関西）  
該当支部からの推薦に基づき、三名の議長候補が示され、全会一致で承認された。
- 報告事項  
1. 事務局報告
  - ・ 秋山真一事務局庶務会計から、以下の報告が行われた。
  - ・ 配布資料1に基づき、会員異動（2021年10月～2022年10月）について、以下の報告が行われた（敬称略・五十音順）。

#### ○逝去（正会員3名）

坂中紀夫（関西）、三谷恵子（関東）、望月恒子（北海道）  
ご冥福をお祈りいたします

#### ○退会（正会員11名）

五十嵐陽介（関東）、川上洸（関東）、武隈喜一（関東）、竹田親次（北海道）、土居伸彰（関東）、富田マルガリータ（関東）、前田恵（関西）、山口涼子（関西）、山田吉二郎（北海道）、支倉隆子（関東）、（株）ユーラスツアーズ

## ○入会（正会員 10 名）

岩間成美（いわま・なるみ：関西中部：ロシア前期象徴派）＜学生会員＞、

推薦者：中村唯史・杉野ゆり

沖隼人（おき・はやと：関東東北：銀の時代・アクメイズム・ロシア亡命文学）、

推薦者：坂庭淳史・八木君人

金丸駿（かねまる・しゅん：関東東北：ソヴィエト非公式文学・リアノゾヴォ・オベリウ）、

推薦者：坂庭淳史・八木君人

小林淳子（こばやし・じゅんこ：関東東北：ゴーリキー）、

推薦者：前田和泉・沼野恭子

佐藤大雅（さとう・ひろまさ：関東東北：アゼルバイジャン文化）、

推薦者：沼野恭子・前田和泉

坪根岳（つぼね・がく：関西中部：ロシア文化・思想）＜学生会員＞、

推薦者：中村唯史・杉野ゆり

濱田玲央（はまだ・れお：関東東北：ガルシンの戦争作品群）、

推薦者：楯岡求美・古宮路子

三浦光彦（みうら・みつひこ：北海道：アダプテーション・映画・ドストエフスキー）、

推薦者：小川佐和子・安達大輔

横山綾香（よこやま・あやか：関東東北：ソ連・ロシア演劇）、

推薦者：沼野恭子・前田和泉

李博聞（り・はくぶん：関西中部：象徴主義・パステルナーク）＜学生会員＞

推薦者：中村唯史・杉野ゆり

## 現会員数

一般会員 436 名

賛助会員 9 団体

- ・ 配布資料 2 に基づき、学会財政レポートが行われた。

## 2. 各種委員会報告

【広報委員会】 本田晃子委員長から、以下の報告が行われた。

- ・ 前回 2021 年の総会から、HP の更新 186 件（前年 76 件、コロナ前 110 件前後）、ML の配信 145 件（前年 87 件、コロナ前 110 件前後）。
- ・ 新学会 HP について、イベント・新刊情報の広報の依頼方法の説明があった。HP・ML のどちらあるいは両方に掲載するかについては掲載依頼者の指定によるが、特に指定がない場合は広報委員会が判断する。また旧 HP のアドレスを変更したため、そちらに紐づいている pdf ファイル等のリンクが切れている可能性があるため、リンク切れを見つけたら広報委員会に連絡するよう依頼があった。
- ・ 会員ページの利用について説明があった。
- ・ 会員から、学会関係のメーリングリストが迷惑メールの温床になっているのではないかと注意喚起があった。これに対して、本田委員長から、委員会系の ML がターゲットになっていると考えられるため、各委員からの要請に基づき、大賞選考委員会・大会組織委員会・大会実行委員会・学会誌編集委員会のメールアドレスを変更するという対応案が示された。

【社会連携委員会】鴻野わか菜委員長（代読：安達書記）から、以下の報告が行われた。

- ・ 社会連携委員会では、日本ロシア文学会・日本ロシア語教育学会共同主催によるシンポジウム「日本におけるこれからのロシア語・文学・文化教育—多言語・多文化共生と教育のポリティクス—」を企画し、2022年9月25日（日）13時からオンラインにて開催されました。詳しい報告は、学会HPをご覧ください。

【大賞選考委員会】野中進委員長から、HPなどですでに発表したように、井上幸義氏を2022年度の大賞選考受賞者として決定し、7月の理事会で承認されたこと、10/22の受賞記念講演開催について報告が行われた。併せて、11月に始まる次年度の大賞の応募受付に向けて推薦が呼びかけられた。

### 3. 若手ワークショップ企画賞

- ・ 野中進副会長から、執行部内で議論の上、五月女颯氏のワークショップ企画「ロシア・東欧におけるパストラルの諸相」への授賞を決め、7月の理事会に報告、承認されたこと、10/22の受賞式開催について報告が行われた。

### 4. 日本ロシア文学会規定類翻訳ワーキンググループ

- ・ 野中進WG座長から、本学会のいくつかの規定類について、日本語原文とロシア語訳文に文言の齟齬が見られるため、昨年12月の理事会で担当WGが立ち上げられ（WGメンバー：安達大輔、井上幸義、グレチュコ・ヴァレリー、野中進）、訳文の改訂作業を進めていること、本年12月の理事会に新しい訳文を提出し、承認後、HPにアップの予定であることについて報告が行われた。併せて、各種委員会委員長に対し、規定を改定する際にはロシア語訳も併せて改定するよう依頼があった。

### 5. 他の学会活動報告

- ・ 中村会長から、配布資料2に基づき、JCREESからの依頼を受け、2021年に開催されたICCEESにおいて日本からの参加者がアメリカ・カナダに次ぐ第3位であったことについて報告が行われた。

### 6. その他

- ・ 特になし。

### ● 審議事項

#### 1. 2021/2022 会計年度決算および会計監査報

秋山庶務会計から、配布資料3に基づき、2021/2022 会計年度決算報告について諮られた。その後寒河江光徳監事から、同監事及び村田真一監事による会計監査について報告が行われた。以上が承認された。

#### 2. 2022/2023 会計年度予算案

秋山庶務会計から、配布資料4に基づき、2022/2023 会計年度予算案について諮られ、これが承認された。

#### 3. 学会誌の掲載内容修正について

学会誌編集委員会坂庭淳史委員長から、配布資料5に基づき、「日本ロシア文学会会誌規定」において、掲載実績のなくなっていた学会研究報告要旨を掲載対象から削除する修正案が諮られ、これが承認された。

#### 4. 支部の合同について

中村会長から、関東支部と東北支部が合同して関東東北支部、関西支部と中部支部が合同して関西中部支部となる支部合同案について諮られ、これが承認された。

5. 地方支部規定及び役員選出規定の改定について

中村会長から、配布資料 6 に基づき、地方支部規定及び役員選出規定につき、支部合同に伴う改定を行うこと、また所属支部に関する内規につき、支部異動に関する手続きを会員自身が行うこと及びその手続きを明示する改定案について諮られ、以上が承認された。

6. 2023 年度全国大会について

中村会長から、来年 2023 年度の大会について、富山大学の武田昭文理事に開催校をお引き受けいただくことについて諮られ、これが承認された。その後武田理事から挨拶があった。

7. 2022/23 年度役員・理事・各種委員一覧

中村会長から、配布資料 7 に基づき、2022/23 年度役員・理事・各種委員一覧について諮られ、これが承認された。事務局書記は北井聡子氏に交代する。

8. その他

- ・ 中村会長から、総会資料のペーパーレス化について諮られ、これが承認された。
- ・ 会員から、ウクライナ情勢の悪化・長期化を受け、日本ロシア文学会として停戦を求め、ロシアの言語・文学・文化の学習・研究の継続の必要性を訴える声明を出すことが提案され、執行部・事務局で慎重に検討することとなった。
- ・ 議長団解任・閉会の辞  
議員団が解任され、前田和泉副会長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

## 4. 10 月・12 月・2 月理事会関連事項

10 月理事会は 10 月 22 日（土）に対面で開催され、12 月理事会は 12 月 18 日（日）に対面とオンライン（zoom）を併用したハイブリッド形式で開催された。また内閣府「日本学術会議の在り方について」に関する声明発出を審議する臨時理事会が 2 月 5 日（日）～2 月 10 日（金）にかけてメール審議にて行われた。主な報告事項および審議事項は以下のとおりです。

■ 10 月理事会（前節の総会報告を参照）

■ 12 月理事会

日 時：2022 年 12 月 18 日（土）14:00-16:30

開催方式：東京大学（本郷キャンパス）法文 2 号館教員談話室/zoom（ハイブリッド開催）

（以下敬称略）

議事に先立ち中村会長から、配付資料に基づき、前回理事会と前回総会（2022 年 10 月）議事録の確認が行われた。

● 報告事項

## 1. 事務局報告

- ・ 秋山庶務会計から、配付資料3に基づき、会員異動（2022年10月～2022年12月）について「逝去・退会・入会なし」との報告が行われた。
- ・ また、同じく配付資料3に基づき、会員管理システム・シクミネットについて、使用者状況、支部統合に伴う新名簿の配布について、そして今年度は会費の督促は行わず、シクミネットへの登録を促すことが報告された。その他、会員検索機能については、近日実装予定であるとの報告が行われた。
- ・ 秋山庶務会計から、配布資料4に基づき、学会財政リポートが行われた。
- ・ また前回大会の際、ナウカ・ジャパンより祝儀として金一万円を頂戴し、事務局の収入として処理済みであるとの報告が行われた。

## 2. 中村会長から、2022/23年役員委員等について報告が行われた。

## 3. 各種委員会報告

### 【学会誌編集委員会】

- ・ 坂庭委員長から、資料6に基づき会誌第55号の進捗状況、並びに会誌第54号が12月中旬にJ-STAGE上に公開予定であるとの報告が行われた。
- ・ 野中進氏から、54号の掲載論文が3本と極端に少なかったことについて、編集委員会の編集と審査方針について質問がなされた。これに対し坂庭委員長から、委員会内でも本数が少ないことについては意見が上がっていたこと、ボーダーラインにある論文が多かったことなどが報告された。楯岡求美氏から、ボーダーライン上にある論文の再査読を検討してもいいのではないかという意見、ヨコタ村上孝之氏から、判断基準が曖昧になってはならないという意見、中村唯史氏から、現在の学会誌規定が、曖昧な点もあるので見直す必要もあるのではないか、という意見が出された。これらを受け、学会誌については編集委員会の権限のもと、引き続き検討していくことが確認された。

### 【広報委員会】

- ・ 本田委員長から、HPとメーリングリストの稼働について以下の報告がなされた。
- ・ 2021年12月理事会～本日までの集計：HP更新数193件（前年75件）、ML数151件（前年89件）
- ・ イベントの告知が多いが出版物が少ない為、あれば広報委員会に知らせて欲しいとの要望があった。

### 【大賞選考委員会】

野中進委員長から、例年推薦が少ないので、理事中心に積極的に推薦してほしいとの報告があった。

## 4. その他

中村会長より、会員の奈倉有里氏のサントリー学芸賞受賞、古宮路子氏の日本学術振興会賞受賞が報告された。

## ● 審議事項

### 1. 2022年度第72回大会組織委員会の総括

- ・ 前田和泉委員長より資料に基づいて行われ、承認された。
- ・ 中村会長から、対面参加者を増やすために旅費の助成金の周知を徹底することが諮られ、了承された。

### 2. 2022年度第72回大会実行委員会の総括/会計報告

- ・ 石川達夫委員長より、資料に基づき行われ、承認された。楯岡求美氏から、発表者が事前登録をしていないケースが多く、名札の準備ができていなかったことなどを踏まえ、次回からは発表者のスケジュール

ル・参加手順も大会資料集に記載があると良いのではないか、という提案があり、了承された。

### 3. 2023 年度 73 回大会について

- ・ 次年度の大会組織委員会の野中進委員長と実行委員会の武田昭文委員長から、ハイフレックスについては、富山大学の教室設備の関係から全面的に行うのは難しいとの見解が述べられた。ただし全部ではなく一部（大賞講演など）については、その可能性を考えていくことが報告され、了承された。
- ・ 次年度の全国大会実行委員会の武田委員長から、ハイフレックスの場合のアルバイトや機材の詳細について質問があった。これに対し、石川達夫委員長から全面的にハイフレックスにしないのであれば、それほど多くの人員は必要ないこと、楯岡求美氏から、ハイフレックスの為の機材は東大から貸し出しできるとの回答があった。
- ・ 中村会長から、ペーパーレス化に伴いオンライン登録を浸透させることが諮られ、了承された。
- ・ 次年度大会組織委員会の野中委員長から、資料に基づき組織委員会・実行委員会のメンバーが決定されたこと、並びに 2023 年 4 月に組織・実行委員の合同委員会を開催する予定であることが報告され、承認された。
- ・ 次年度大会実行委員会の武田委員長から、資料に基づき、プレシンポジウム・会場の施設について報告があり、了承された。また、会場視察、合同委員会の日程については今後調整していくことが了承された。

### 4. 日本ロシア文学会規約類翻訳 WG について

- ・ WG 座長の野中副会長より資料に基づき報告が行われ、①意見がある場合は、1 月末までに各委員長は野中副会長に報告すること、②今後、規約に関して改定がある場合は、各委員会でロシア語訳も合わせて用意いただきたいことが提案され、承認された。
- ・ 中村会長から、2 月には学会 HP に変更が反映される予定であるとの見込みが述べられた。
- ・ 「倫理委員会」に関する内規 4 条の改定について野中副会長より、倫理委員会の佐藤千登勢委員長の同意を得ているとの報告があった。これを受けて中村会長より、内規 4 条の改定を理事会に諮り、総会には事後報告とする旨の提案がなされ、承認された。
- ・ また広報委員会の本田委員長から変更をどの時点で HP へ反映してよいかとの質問があり、即時の反映が了承された。

### 5. 若手ワークショップ企画賞の次期募集について

野中副会長より、資料に基づき報告があり、これが承認された。

### 9. 国際交流助成について

- ・ 武田昭文委員長より、資料に基づき募集要項の改定について説明があり、承認された。
- ・ さらに中村会長から、「(1)国際学会等での報告に関する助成について」の申請資格、並びに「(2)公開研究科・(ミニ)シンポジウム等の実施に関する助成について」の申請資格を次のように変化することが提案され、了承された。「①2002 年 6 月 1 日～2023 年 5 月 31 日までに〇〇〇での報告をされた方」を「される方」に変更

### 10. その他

- ・ 中村会長から、三谷恵子前会長を偲ぶシンポジウムを①日本スラヴ学研究会②東大文学部スラヴ語スラヴ文学研究室③日本ロシア文学会が合同で主催する予定であること、開催時期は 2023 年 6 月予定であ

ること、並びにロシア文学会からは中村会長が担当者となることが諮られ、了承された。

11. 10月の総会でのロシア語履修者の減少に対する対応を求める会員からの提言について
  - ・ 中村会長から、執行部・事務局の審議の結果、現時点で学会として述べるべきことは、すでに日本ロシア文学会から出した声明とメッセージに表現されているため、当面は新たな提言を発出しないこと、ただし学会員 ML で 2022.2.28 声明と 2022.3.15 メッセージが学会の基本方針であることの確認を行いたいことが述べられ、了承された。
12. 今後のロシア文学会の活動について
  - ・ 中村会長から、通常の企画を鋭意行っていくこと、特にコロナのため2年間中断していた三谷恵子前会長が始めた一般市民向け公開講座を再開することが提案され、了承された。企画の内容については引き続き検討することとなった。
  - ・ 楯岡求美氏から、受賞記念講演以外の今後のイベントについて以前のような「ロシア文化・言語の魅力を紹介する」という趣旨で行うことに対する懸念が述べられた。これに対し、中村会長から、具体的な内容については、今後審議を続ける予定であるが、ロシア研究はロシア礼賛ではないこと、学会員の研究の最前線についてアウトリーチはすべきであるという見解が述べられた。
13. 中村会長から、ロシア語・文学に関する学生主体のイベントに対し、主催者から依頼があった場合に共催・協力・後援等を行っていくこと、並びに学会員が SNS 等での周知に協力していくことが提案され、了承された。また各大学における学生主体の企画・イベントの状況について報告があった。

## 5. 会員異動（2022年1-12月）

ご逝去（一般会員）：坂中 紀夫様（関西中部）、三谷 恵子様（関東東北）、望月 恒子様（北海道）

入会（一般会員：敬称略）：栗生田杏奈（関東東北）、ボルディロフスカヤ・アンナ（関東東北）、沖隼斗（関東東北）、金丸駿（関東東北）、小林淳子（関東東北）、永田怜絵（関東東北）、濱田玲央（関東東北）、三浦光彦（北海道）、横山綾香（関東東北）

入会（学生会員：敬称略）：岩間成美（関西中部）、坪根岳（関西中部）、山田智子（関東東北）、李博聞（関西中部）

退会（一般会員：敬称略）：有泉和子（関東東北）、岸本福子（関東東北）、佐藤祥子（関東東北）、下郡健志（関東東北）、武隈喜一（関東東北）、竹田親次（北海道）、富田マルガリータ（関東東北）、支倉隆子（関東東北）、藤井明子（関東東北）、八島雅彦（関東東北）、山田吉二郎（北海道）

（いずれも五十音順）

以下の会員とは事務局が現在連絡を取れていません。住所およびメールアドレスをご存知の方は事務局まで情報をお寄せください。

赤尾光春、秋月準也、菊池嘉人、金玟英、工藤孝史、コルコ・マリア、菅谷広子、世利彰規、恒任翔吾、ブガエワ・アンナ、宮本友介（五十音順：敬称略）

## 6. 新役員・委員（敬称略）

|     |                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------|
| 会長  | 中村唯史（2021年全国大会～2025年全国大会）                                  |
| 副会長 | 野中進、前田和泉（2021年全国大会～2023年全国大会）                              |
| 事務局 | 秋山真一（2020年度全国大会～2024年度全国大会）<br>北井聡子（2022年度全国大会～2026年度全国大会） |

理事（2021年全国大会～2023年全国大会）

|            |                                                                                                |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 北海道支部      | 大西郁夫（支部長）、岩原宏子〔事務局長：菅井健太〕                                                                      |
| 関東<br>東北支部 | 沼野恭子（支部長）、朝妻恵里子、阿出川修嘉、大須賀史和、貝澤哉、鴻野わか菜、<br>越野剛、坂庭淳史、楯岡求美、鳥山祐介、野中進、長谷川章、前田和泉、<br>三浦清美、八木君人（事務局長） |
| 関西<br>中部支部 | 金子百合子（支部長）、藤原潤子（事務局長）、杉本一直、中澤敦夫、<br>横井幸子、ヨコタ村上孝之                                               |
| 西日本支部      | 佐藤正則（支部長・事務局長）                                                                                 |
| 顧問         | 井桁貞義、諫早勇一、佐藤純一、沼野充義、望月哲男                                                                       |
| 監事         | 寒河江光徳（2021年全国大会～2023年全国大会）、村田真一（2021年全国大会～2024年<br>全国大会）                                       |
| JCREES 幹事  | 中村唯史、前田和泉                                                                                      |

各種委員会（2021年全国大会～2023年全国大会：\*は2022年度大会～2023年度大会）末尾カッコ内は  
委員委嘱・選出規約

|              |                                                             |
|--------------|-------------------------------------------------------------|
| 編集委員会        | 坂庭淳史（委員長）、相沢直樹、阿出川修嘉、大平陽一、大森雅子、高柳聡子、田中大、<br>長谷川章、平松潤奈、山路明日太 |
| 学会賞選考<br>委員会 | 八木君人（委員長）、黒岩幸子、中澤敦夫、乗松亨平、藤原潤子、村田真一                          |
| 国際交流<br>委員会  | 武田昭文（委員長）、グレチコワレーリー、古宮路子、齋須直人、高橋沙奈美、楯岡求美                    |
| 広報委員会        | 本田晃子（委員長）、伊藤愉、岩本和久、梅津紀雄、梶山祐治、神竹喜重子                          |
| 社会連携<br>委員会  | 鴻野わか菜（委員長）、北井聡子、高橋健一郎、堤正典、鳥山祐介、松下隆志                         |
| 倫理委員会        | 佐藤千登勢（委員長）、大西郁夫、コベルニック ナディア、佐藤正則、前田和泉                       |
| 大賞選考<br>委員会  | 野中進（委員長）、鴻野わか菜、坂庭淳史、佐藤千登勢、武田昭文、中村唯史、本田晃子、<br>前田和泉、八木君人      |

|                   |                                         |
|-------------------|-----------------------------------------|
| 2023 大会<br>組織委員会* | 野中進（委員長）、石川達夫、伊藤愉、グレチコ ワレーリー、武田昭文、堀口大樹  |
| 2023 大会<br>実行委員会* | 武田昭文（委員長）、北井聡子、斎須直人、笹山啓、高橋沙奈美、高田映介、松枝佳奈 |

## 7. その他

1. 2023 年度全国大会は 10 月 21～22 日に富山大学五福キャンパスにて開催されます(20 日はプレシンポ)。申請エントリー受付開始は 5 月初旬の予定です。詳細は後日学会 HP や ML でご案内します。

2. 学会規約類のロシア語版の改訂について

野中進

ロシア文学会では会則の他、とくに重要な規約についてロシア語版があります。ただし、近年、日本語版の改訂が正しく反映されておらず、両者の異同が大きくなっていました。理事会では WG を作り、2021 年 12 月から約 1 年をかけて改訂作業を進め、この度、作業を完了しました ([https://yaar.jpn.org/?page\\_id=934](https://yaar.jpn.org/?page_id=934))。学会誌や国際枠などご不明の点がある方は、ロシア語版もご活用くださいますようお願い致します。

### Обновление русской версии правил ЯАР

С. Нонака

Японская ассоциация русистов (ЯАР) имеет русские версии некоторых из своих наиболее важных правил, таких как Устав ЯАР. Однако в последние годы изменения, внесенные в японскую версию, не были должным образом отражены в русской версии, и различия между ними увеличились. Правление ЯАР сформировало рабочую группу, которая работала над обновлением русской версии около года, начиная с декабря 2021 года, и сейчас завершила свою работу ([https://yaar.jpn.org/?page\\_id=934](https://yaar.jpn.org/?page_id=934)). Тех, у кого имеются вопросы по поводу бюллетеня или участия в конференциях ЯАР исследователей из зарубежных стран, мы просим пользоваться обновленной версией правил.

3. 学会では、全国の大学のロシア語履修状況の把握に努めています。つきましては、リンク先の Google フォームアンケート [ <https://forms.gle/5ShVxfXGo78JXeu8A> ] から、以下の点（特に①）について、状況をご連絡ください。ご回答は 4 月 28 日頃までに、お願いいたします。

①今年度の履修者数と昨年度との比較

②学生の履修動機や関心の所在（例年との異同）

③履修者の勉学への熱意（例年との異同）

④その他

- ・ 全国のロシア語履修状況の傾向を把握することが目的ですので、①はだいたいの人数を、②と③はご自身の印象をお知らせいただければ幸いです。
- ・ 授業開始直後の履修者未確定段階でも、一度、その時点でのだいたいの状況もお知らせいただけると幸いです。

- ④は、何かご意見や感想、問題提起等がありましたら、お願いいたします。  
いただいたデータは、上記の目的以外には使用しません。また、情報を提供してくださる方々の許可を得ずにデータを公開することはありません。

ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

## 8. 事務局からのアナウンス

- 例年事務局より、会費の滞納のある方に会費の督促を行っていましたが、今年度は2022年9月1日より導入いたしましたシクミネットへの再度の登録依頼で会費の督促に代えさせていただきました。
- シクミネットは2022年9月1日より日本ロシア文学会で採用した会員管理システムです。学会ホームページ <https://yaar.jp.org> の上部左端にある「会員ページへのログイン」からシクミネットに入り、マイページから会費の決済方法を選択してください。ログインに必要なアカウント ID は学会に登録されているご自身のメールアドレス、パスワードは `wsx27mrk58` となっています。初回アクセス後、パスワードは各自で変更をお願いいたします。
- シクミネット内で近日中に会員相互検索機能を実装予定です。これにより、情報漏洩のリスクを避けつつ、会員名簿の代用とすることが可能になります。会員相互検索機能を有効に利用するためにも会員のみなさまの研究キーワード登録が重要となります。既にシクミネットにアクセス済みの会員の方も、改めて研究キーワードの登録（最低3つ、最大4つ）をお願いいたします。会員相互検索機能の利用法につきましては後日改めてお知らせいたします。
- 今年度はシクミネットへの移行措置ということで、郵便振替による決済も受け付けておりますが、極力シクミネットからの会費納入にご協力ください。よろしくお願いいたします。
- 3年度分以上の会費滞納がある会員については、会員管理システムの都合上、マイページへのアクセス後に事務局の承認が必要となっております。未納分の決済方法などについて事務局（庶務会計）までご連絡ください。

### 会費決済に関する重要なお知らせ

2023年1月1日以降に郵便振替によって会費を納入した方は、会費の納入状況がシクミネット上にまだ反映されていない可能性があります。その場合、会費納入方法としてクレジットカード（継続決済）または口座振替（継続決済）を選択してしまいますと、今年度の会費を二重に支払うことになってしまいます。今年1月以降に郵便振替で会費を納入した方は会費の決済方法としてコンビニ決済または Pay-easy 決済を指定し、2023年9月1日以降に決済方法をマイページから変更してください。

クレジットカード（継続決済）または口座振替（継続決済）の登録手続きを行うと、（まだ当該年度分の会費の支払いを完了していない場合）、手続き後すぐに会費が決済されます。即時決済を行いたくない場合は、ひとまずコンビニ決済または Pay-easy 決済を指定し、後ほど決済方法をマイページから変更してください。

- 学会ホームページでは、学会内外で行われるロシア語・ロシア文化全般に関する催しについての案内を積極的に掲載しておりますので、適時閲覧して頂ければ幸いです (<http://yaar.jp.org/>)。
- 現在、事務局から会員への連絡は、一部を除き一斉メールで行っております。まだ連絡用のメールアドレスを事務局にお届け頂いていない会員におかれましては、ご自身のメールアドレスと氏名を事務局にご送信下さい ([yaar@yaar.jp.org](mailto:yaar@yaar.jp.org))。また、お知合いの会員でメールによる学会連絡のない方がいらっしゃいましたら、事務局あてにご一報くださるよう、お勧めください。

なお、メールは大量一斉送信しているため、誤って「迷惑メール」に分類される場合があります。学会メールリングリストからの配信が長期間届いていないと感じられたら、まず「迷惑メールフォルダ」等をご確認いただくようお願いいたします。

- 『ロシア語ロシア文学研究』54号（2022年）がお手元に届いていない会員の方は、現在のご住所（郵送先）を事務局にお知らせください。また、お知合いの会員でそのような方がいらっしゃいましたら、事務局あてにご一報くださるよう、お勧めください。

日本ロシア文学会会報 第52号（2023年3月31日発行）

発行人 中村唯史 編集人 日本ロシア文学会事務局

〔書記〕〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8

大阪大学人文学研究科 北井聡子研究室内

〔庶務会計〕〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学外国語学部 秋山真一研究室内

E-mail : [yaar@yaar.jpn.org](mailto:yaar@yaar.jpn.org)（共通）